發句帳

發句帳秋部

題

初秋 第一

一葉

秋螢

蠽

秋扇

七夕 第二

秋柳

秋納涼

秋蟬

萩

桐
虫
楸
霧
秋鷹狩
草花
梅紅葉

荻
鹿
露
稲妻
槿
薄
櫨紅葉

女郎花
刈萱
葛
月
十三夜
鴫
蛩

蘭
秋
暮
名月 付 十四日月
雁
鴲
菊

稲　鴫
柞　正木
紅葉　秋落葉
秋时雨　九月尽
雑秋

秋

初秋

きのふ秋を月とそ見るこのゆふへかれ
あれ海にも出るや都はきのふの秋　宗旅
雲水といろにあき出るこや庵の外　同
世にあそ秋富士を雪の見つあし　同
末かれしの見かれ形と里まて
こゝろしに見えや秋さへ見かれ露　同
清浄寺にて
秋来ぬは朝日を見かしれ都の里の外　同

きのふ出しつや風を雨やけさ月のあき　家長
秋やけさみゆとゝきこえ初けし　宗碩
山のはの雲もとまりやけふの秋　昌休

平井太兵衛尉興行

秋や出し入八十のこゝろとの契　同

越前にて

ちぎりあひのゝ契に秋立ぬらんと哉　宗養
色乃こゝろ花をもろおもひの聲へハ秋　同
あき風をむかへてかうきたりと哉　紹巴
秋風のきえゆふ雨をみぬたまとかな　同
うちふくやきのふかうもと秋乃風　同
あら風や月のみすハ中ハあきの空　同
雪ハいろや月の秋まづかすみの空　昌叱

七夕

いのちさへ七日ハほしのあふま哉　心敬
ちりしをりふ二あひをうけてころをぞ　宗順
石河やふむ紅葉とをさあふ世のかれ　賢盛
竹林　若　秋の葉をとうくきぬ星ハちらりかな　行助
雲ハ上ありけふせく水や天乃川
新撰　あまの川あふ世をかめハうきあき哉
壁　七夕に玉琢ゝうけかみさるうかま
たえぬ世や年のわたりハ世々の秋
出し一秋一と世ありけりの宿の舩

梶とたか草の露とるほしあひの秋　宗祇

散そめし一葉やかりのむかし人の手　同

朝のまれ名まちふけしのちきる空哉　同

ほしあひや名のみ七月の一夜つま　同

行あひのそらやよひのある秋のかし　同

長月ありつる人まつかしのあふ夜哉　同

思ふるよとみえれ世やあまの河　同

世しみありてあふやまた河ふ瀬天川　同

天乃かそおりへハ山のなみあふ世哉　同

夕なきの月やあのそらあまの川　同

ゆふ涙ありし月や岩こすあまのうへ　同

天のうち月待人あはまほしふ渡り那　同

涙こそぬちきりやゆくすゑ天のかそ　同

けふ乃ミや水のうへぬちきる天乃河　同

かしと見るうきさ來ヶ波乃山し柳　同

閏月七夕あり

河ふ夜えや出しさへ渉の天漢星　同

七夕後朝り

あまの河思へたとをさわくつり哉　同

ちきりしや神代乃いまに天乃かし　肖柏

うさはしや後まつ行あひの天乃川　同

月も星をめかし合志乃ふあまのかり　同

かし合や世れいまわかといむ秋哉　同

朝りしそぬるよや川為あまつ作し　宗碩

みちハ世毎なるとこそきくや天乃川　同

むかひの社や雲井に絡あまの津邦し　同

よそめにハ座頭の涙のはまつほし　同

人かるこそ秋しこそかしれあふよ哉　同

ほし合れうつくにかもむ去年乃夢　宗牧

八日

水くきに流くこそやけされあまれ川　同

おく露とやあふ世こそ淵乃はまの河　昌休

あこれ近よりくるさけれあまれ川　宗養

涙里せんなふやともかまあまの川　紹巴

おりまこ露やおりしふ手向こそうり衣　同

八日

昨日みひしはしぶ…泊里舟　同

梶鳴やいさ川たのかし乃手向草　同

河ふりとや着のうきさはしあまれ川　同

あさ知世やなふ心見るあまのうえ　同

河ふ夜すを年乃わさつまの秋こそ式　昌叱

八日

一秋鳴くあふ世やとくさあまの河　同

六日

あけ孫とハあのよやいそく天川　同

一葉

ちりこそまさあきさ風なしぬ一葉かれ　行助

苑
剰撰

木のくま入り秋の姿見ゆる一葉哉

おしむへき秋を知まりぬ一葉哉

露ならてちからをうせぬ一葉切那

壁

塵とつ身の姿波浪さゆる一葉かな

風をはけさ忘るゝはゆる一葉かな

木葉ちらぬ風いく日あきのゆは

萩乃(ほ)甚まきらぬ風なる一葉の那　宗祇

の姿見まへ一葉ふと残きや庭の迹　同

風よりさきなきなくての後な一葉哉　同

散やいつの姿を咲人ぬ一葉の枝　同

風や忘ぬら我のと見えし思一葉の松　同

ちりぬ木を一天ふたちなるわゝし哉　同

木かくしのたつ姿あさき一葉の那　同

秋きぬときゝける一葉はちりをなし　同

ちりぬくをてたや秋のみるとふは　同

あさ乃浦ふはゝ見ぬ世は一葉の那　同

蝉のこゑたけふり秋の一葉かな　肖柏

うつはかえてちるを手入乃一葉の枝　同

木の間より月の秋世つ一葉かな　宗牧

庭より散るは一たやうる月のあき　同

秋をけさ一たふ見えての姿の略　肖休

和漢一折よ七月一日當座

山紀そめしうき枝や一とあさ乃風　同

風みえてさなかるゝ梅は一葉かな　宗養

秋乃日を一葉もゝりの末ハ月かりかな　紹巴

かの枝末て一葉をすゝをすゝみ哉　同

の葉おちて枝と語く秋の一葉かな　同

ちや舟入り秋との世ゆる一葉かな　玄仍

秋柳

壁

ちるをこぬ下葉のみすそふ柳かな

散てわかをそらふみきるは風にれ哉

ちりちりハ秋中をあく思柳かな

思んるもの里の語くをち庭の柳かな

やまきさ吹風入り林せつこしやこかな　宗祇

ちるや心の葉ハ森の風かきりけ　同

ちなりけをみれを柳やけりの葉　同

ちるを見く残けを風にれ柳かな　同

秋のちくいとふりよなれ庭にれハ　同

やまきさふく川の葉まて秋の三河　同

庭にれちり芽けりの世吹川へ哉　同

あさ露にや柳を末たのき河色の枕　同

あさの露を柳をはるのみゆる哉　同

木葉けりへ柳いやなきけくその那　同

ちりてきなそあとのをれゆる柳　同

あき風まちおほし花なるやかまりな　肖柏

あさきりの木すゑや柳河原風　宗碩

けり花やちりてもさそふ外やかまな　同

さゝ川やらまてハふかきほどもやなぎさかふ　同
秋のもをちらりし柳さくらかれ　同
ちるまじきあきぞ枯木ハ志のふ柳かな　同
　大堂木まで
鷺めかるりとゞまる里堂のし柳かな　同
散くゆく人末のりとつはのやなぎ哉　家頼
たちもしてなかるゝまゝや風かきまくら　紹巴
ちるとみし来るや浪乃かへる秋　昌叱
下葉ちる柳ありなやきなかの秋かな　同

秋螢

あき風は玉よふかうつる秋の螢かな　昌叱

秋納涼

螢　ゆきかひの江川の瀬涼しあきの水
すゞしさやたもや三山下の秋のいろ　家旅
涼しとそなをしき秋の夕　同
すゞしさは水よりふかし秋乃宿　同
涼しさや山をそむるしかあきれいろ　同
　宗碩法師牲盤入道上人連歌に
涼しさやけさうつろふさうた姫　肖柏
うそすゞし秋をましし風も月夜　同
うけ涼し秋やうくまぬいそ乃松　昌休
涼しさとゆくみ乃水やあきの瀬　紹巴

身にしむやゆふしほ風の須すゞみ　同

浩然楚れうる風すゞし秋のうゝ　同

涼しさや秋出る山乃ふもと河　呂比

螿

新撰

日ぐらしれ夢は月まつあしさか那

ひぐらし乃夕かけきこさぬ深山哉

日ぐらしのこゑよりゆかる蓮かれ　宗祇

わかって幾け日ぐらしれ夢よ朔かけ　同

日ぐらしに築かをさし秋のはゆ　肖柏

秋きそむ日ぐらしれ激を指かふ　紹巴

秋蟬

竹

あと乃ゑふをく露ちる世秋乃せみ　賢盛

秋扇

新撰

風かはりてつゆをくあきれ扇か那

うきをとまりあきさむる秋乃扇かれ　宗祇

荻

園

こゑやこゝみちあらし吹そよ荻乃声　専順

竹

ま川風やそより秋山くだされしを

また夜荻れの葉音やあかされまつれ声

萩にうき世やとらハや世露もなし
浅茅かくうつしれ荻乃朝しめ里
萩乃葉りゆさ露なりり風をまつ那
萩りとひ松よこゝふ風めし切那
壁
夕すゝめし風やいくあさ荻れこゝゑ
月のあさなゝ風きよしれ秋のこゝゑ
わのめくとおとさや来はの中ふ月夜
新撰
吹かくる風やくもす気をおとのこゝゑ
きる風をたや秋かのしおさされ声　宗祇
おとさをまさしる山乃秋の声　同
ふて哉け松をふるしれたきの音　同
おさよみむ路や庭秋のゆ葉　同

吹こすゆ洋中ハ下気すす荻れ音　同
ちゑてこれ風いくり人ゑ里荻のこゝゑ　同
綾くふけ夕ぐれきふあさ浅し　同
荻みふけきうをいつきれ秋乃ゆ葉　同
永きよふけ世中をおさまる秋の風　同
まつ風はかよい流茶伏をおききの音　同
山紀の人秋の葉や山まの庭れ松な　同
秋ハ袖まつや志る風おとのこゝゑ　同
松や志風荻りいく世のまの風　同
よきみをにの葉や浜松中は乃おき　同
あさ浅茅乃月のさる荻の葉も明　同
浅よの葉をけさやふわぬ荻との音　同

秋なりとおきよもきゆふあらし哉　同

わき成秋の風をはさまつ山路かれ　同

千句連哥り

そゝれ色やこゝへハ秋のゆふさ乃変　肖柏

酒さかり尓秋ふかき風やゆふさハり世　同

風よりも柳ちるら江乃おきのあり　同

自然斎忌日永英僧都坊尓して

そよめくやをちふのみるあと萩の変　同

音羽山色すゝく

ふはや秋いりまつゆふさの音羽やま　宗碩

吹よそり風こそ見ぬゆふさ乃こゑ　同

松の葉ハ萩乃そ山のたもの根かな　同

吹やはし夕をたてまつのうへ哉　同

花とみれ色すゝや音すゝやゆふきのこゑ　同

わきの音以てそよ秋乃雲井かな　同

分よふけやこゑへかぬ落萩れ変　同

おはの変ひと里秋ふかきや雨かれ　同

ゆふさハ露まゆ尓風ゆ移す日かけ哉　宗牧

萩の葉尓をりや浅ましき尓乃秋　同

吹うれハあらしをおきのそ山かな　周桂

いつまうちて下萩ハ露あらし哉　同

雲井たえけさやそつ風わき乃こゑ　同

根やうつり見のうちなる萩れこゑ　同

松風尓ゆふさ乃をむけのかさ枕　昌休

聖護院殿にて

あきかせや萩乃うは葉にあまつ風　同

秋はいろや夕をミせけり萩さはなり　同

つゆをよしいたく夕乃萩のこゝろ　家頼

下おきや四方の木も散はなもなし　同

露見えて萩乃うこきくゆふへかれ　同

むさし野を着ハありかはれき乃変　同

萩乃葉まふけを野分の中へ入那　同

入秋なしぬ月ときわとまた萩は露　同

萩乃花あらつき月乃ゆふへ哉　同

いろふかんおもの上風を紀乃渡ゆ　同

下おきはしきれるはなのまかな哉　同

萩のあらはの思ひをはなけ花野かれ　同

玉志をまけさやかなることさらく東萩　同

ちらはなるに法師ハ行乃萩は変　紹巴

やせかへるれこの上をや松の下葉　同

声乃葉や山の下葉かよふおきのこゝろ　同

を海の下葉や山路とめ入れきのこゝろ　同

奥山いてゝ志らん萩の秋の声　同

小萩乃こゝろ山水みちやも流さひ　同

萩はとおもねまきさかれ海のはな哉　同

秋風吹らん後悔めん萩のこゝろ　同

あきまとく志乃ひしおもの心のこゝろ道　同

和ま見せよ秋ときゝつおもの変　同

世よ秋とおもひすゞりに萩はうゝゑ　同
みよや人やどとまへは露とはおきの露　同
萩乃葉やすきとをるひくそわけ　呂叱
志ら萩に来気すれそしけさのはゆ　同
おきさの夜深つたひするひかりか　同
萩ちるや露ふり志らねあきれかな　同
おきさの川も月のうつりの志らさ哉　同

佐吉万句

須まさまにおもひ打捨人思なきの形し　玄仍

江雪詠天満宮すく新禱千句

白萩ありしもとあまりかれ草の露　同

昌叱一圓忌千句

まかほにもあうかるはけを萩の道　同

桐

撰

桐乃葉は動くやなちり今朝はあめ
あき霧に雨きくきさまは志らき葉のれ
流れしきさま乃葉うくあきの水　宗祇
落ちうかるしきりの葉うちあく秋は霧　同
きり乃葉はちりねとの後し雨の夜　同
ちるか夜はきりの葉落しあき乃はし　同
雨ともひなし時
きり乃葉は夜坂うつくせあきは定　同
きりの葉もえりしきけを色なきの道　同

きりの葉と石井に音そむかし哉　同

きり葉乃たえまおちぬれハそらあさき風　肖柏

和漢聯句より

きりハ葉に秋乃月うつしなき哉　同

きりの葉やちりおとろ思秋ハ雨　宗碩

きりハたゆやくまぬとうとく秋乃見　宗養

越前まて

きりのたち一葉も見の秋の里の那　同

風たえて高きこずゑ乃おち葉かれ　呂叱

本願寺法門まて

一葉ちるきりもやかてされ百葉かな　玄仍

萩

新撰

錦ふもまやたとりしたるのつゆ

秋乃野ハ萩をさまさまのしきりれ

花ちきハいろはく花乃下葉那

風まちこれゆよおらまてたきら花

竹

露なりうつれまいおら主思てたき哉

壁

おくさいれ乃ミ咲そふ風かたきのつゆ

咲かく世蘭をもとめうれたきろ花

あわしして風をまさすかたきろ法也

小萩りう月をのミぬれゆゆる

まかたぬとうむらさ花の小萩哉　宗祇

秋の夜のふり思ひやみかりひきゝの露　同
うそうけよはゆうそうけひ萩の花　同
露なりゝ見ゆるともわらしをむめ花　同
うきせとてわらいまた人萩乃はゆ　同
わらう人やたりふ色あ紀をきりはか　同
露やれ茶の夜をなきあそそむり花　同
風波を越て雁の声まても秋の汗ゆ　同

西行法師定城野乃萩を立膝
和尚へまいらせゝりしそれ
桂とそうへたり之候承まく

露けさや庭とも定城野をきつゝか　同
乃こ迷けさ月波未數れこきのはゆ　同

末来ゆとひろかよふを秋の下數ぶ　同
あれすゝきみてよせていそん秋の道　同
花をまさむらさふ涼しをきれはゆ　肖柏
えきの露花風河くそふをさ數りか　同

自然斎十三回忌ゑ手向連哥
後藤乃旧跡ゑ宗碩住ねしまて
面白き丈同覚主を發句乃うら
ゑをさく候けり二ノ

むそめしやをきをゆるえれ秋乃庵　同
浙きわのあしさやよ候乃をきつゝ花　宗碩
何とし見ハ數さ人花清人をきの露　同
見あれうら乃あきや定城野萩の露　同

さきか花汀りわらふうしむか那　同
いろしくれ見つや朝露をむのつゆ　同
男藤なくや顔の志川くや萩乃ゆ個　同
いねそて見なる秋わりぬる小萩哉　同
出紀まゝせし〻縁庭紅葉も紀乃庭　同
志ぬとむいろうそかあとそきの露　宗牧
こえきえうまかそて花のみしき哉　同
うへ家にのみしきとそえんて萩哉　同
よるそみん月波みしきれ萩の咲ゆ　周桂
露かふ世これあろも乃玉うそきれ花　同
朝さみうえ松りぬうそきの錦哉　同
たそうなきはゆの花と咲小萩かれ　昌休

みをやさまやむ家月ゆ人さきは露　同
野へ見れは志めゆふ露の小萩かれ　同
咲ゆにも見花やつゆをもさきか花　同
山をみ川そまのましき波立田ひめ　宗碩
そめて咲ゆかりの色見をねこそ紀哉　同
月のけやおもきうう人のさきは露　同
花の色よきえし包ひうをむのつゆ　同
志らつゆを花のいろなる小さき哉　同
まかへ風わうりわな露をふ乃咲ゆ　同
風まさそれらてや見ましき萩のつゆ　同
こかねく波みそは志らしれ萩乃露　紹巴
花をおもみ庭のうえなすむね小萩哉　同

風なくてまもる人あきやそらの篠ゆ　同
花をおもゑてよまれけり来鷺の那　同
影にとさて色かうらのそこさの露　同
咲白きえて色まさりけり萩かな　同
玄城鷺乃かやとふ人をはし乃つゆ　同
春月鷺やむ人をあらふのはきうも　同
露やなげ下葉にきかふてきうそれ　同
花につゆれ色れなえきみの下葉かな　同
みさ久萩枝やこの夕はきみのゆ　同
山さそ麻の音そりんをきれつゆ　同
うつ秋へそんつゆのいろそふこ萩か　同
いかわきといひしをいつまきさ露　同
をききのえれ花のすみせゆふをくき哉　同
入しゆをけりゑなりく鷺をきさ露　同
分かくしお給をさそか萩すゝか　同
ちかさうぬ草かまとをも萩の露　呂吮

ゆ条道場にて

ぬるやけりふるのまゆ志なる萩かな　同
をれかえやをのうま社乃すゝき哉　同
古枝あをさくやる〳〵秋ときうはか　同
けを孫みむゆ路出りしをきすゝき　同
ゆく草の秋とみるえれちきうも　同
ちなあとハれもとはふのこをれず　心前
露をおもふ風乃招らはぬ小萩乃那　玄仍

千句第三

うれしさをさて野人や又あはれ萩乃庭　同

紹巴追善柳淳興行

とふ袖乃むかしをさながら人そなきに庭　同

於八条殿

あはれ世をまことせし枝かた野の露中　同

露ちりてうつ袖もはかなき小萩かな　同

虫

新撰

虫の音はうらみ孫衣の秋来ぬ河しも哉

園

そつあさき虫しもの音の二葉かな

松虫を風にとさはきなへ人のさきのこゑ　宗派

風やみさうさき孫むらし虫のこゑ　肖柏

よそに幾けとえきまぬてふ虫の聲　宗牧

あはれ翁人や庭とあき虫の秀　昌休

むしの音もをすほとゆく落かれ　同

宗牧身三回千句

むしのは孫と袖まちのふれみてき徒て　同

色なきは野やいくらし虫はこゑ　同

夜とまりむしの音知し花のやと　宗養

むしの孫ときうれる野人や唐錦　同

むしの孫やちうまし徒の花すゝき　同

さりや月霜萩のしら糸乃むしれ　同

むしの音をすゝむち知きゆくりの　紹巴

松むしの声よはりけるやまかな　同
きく人はむしのねよりも夕べ哉　同
まつむしは声やかはれる峯乃寺　同

鹿

竹　とはや雨をも鹿鳴らしたるかな　心敬
新撰　なく鹿の声をこなたに志ぐれかな
壁　鹿乃声聞ゆふぎりはまがきかな
鹿の声をいづ一志ぐれのやま路かな
志かは猿と山なるきりのあらし哉　宗祇
志かのねをきくはとや山もみぢ哉　同
鹿そなくつまやぬる野のすすきかな　宗長

鹿の猿やいくへのと山そつゝみち　肖柏
ふけぬるか月ゆく鹿かく門田かな　同
明けぬるか志かは声ぢかき門田哉　同
雪と思ふ志かの声は田そらかな　宗碩
志かは猿乃そらぬれ里や秋あらし　同
志かの音をきく河辺乃紅葉哉　宗牧
志かは猿みとをき山乃紅葉かな　同
志かのねは夜むやとをき山下風　同
奥山にしかの猿や嵐下葉かな　周桂
都まで聞ゆる志かの猿声やな　同
きそしかは朝霧を分けすぎぬ　同
しかの猿やそめし時雨の峯乃松　昌休

ふけわたる雁の声やとは夜のあまの川　宗養
妻なしね夜さむきしかのなく音哉　同
や夜は浪て雁は音よする沖津なみ　同
夕まくしかの声と絶きり田哉　同
きく人に雁の音かそれゆくゑなりけり　同
しかの声を鳴てもわかし深山哉　紹巴
おきさの霧にしかの声すひく夕かな　同
雁かねを花のかけとやしのゝ小草　同
しかの声をもむや浪風の月　同
さをしかの霧こそそふえ山かな　同
於高野
つまよふに我しかの声さそふみ山哉　同
をみなへししかの声きかんゝ山哉　同
なくしかは霧こそ萩の錦しあけて　同
しかの声を河瀬くるゝ萩尾花　同
越ゆけんややしかの声あまたなり　同
しかの声にと絶山もとし秋哉　昌叱
しかの声や山又やまの夕あらし　同
いつくにか雁は音乃とれ夕あらし　同
於南都
しかの声をつまとしかの小のゝ乱れ　玄仍
しかの声へあきてぬ世人の色かな　心前

秋

あさ志ぶ八ひさ志く風ふく夜八代

ひさ紀ちる谷山本もとしかりつゝ後　宗祇

かり鳴てひさ紀色淡く夜八りふ　同

ひさ紀ちりて海風もとし垂井沼　同

むさ紀句ふ谷山や吹あらしものめし　宗碩

ひさ紀ちり河しみえれさく浦へ代　宗牧

経会海辺すゞく

秋はいろや月も夕陽のと海ひさ紀　昌休

むさ乃森きりてとの流し浪むさ紀　宗養

引汐のしかはてさむしと海ひさ紀　同

浪ひさ紀むさきふなるみ乃志さ気献　紹巴

露

閑

露やかゝ林乃霧や雨のあさ月うけ

名そさえ思霧を風ふく草乃うけ

壁

螢ハけさ北須磨志るしつゆハいろ

ちひく蟹を秋や河しのと絹乃露

秋やきしつゆをえらりね山路うれ　宗祇

花まさりん草ゞ葉あらすか秋の露　同

露なり思みもとを瑞乃末をふり那　同

吹むすへつゆやえよそれあ紀の風　同

風も孫よ夕汐ゆ乃とり朔りしを　同

越前国すゞ下て上行り時

いはれさる宮にちりは世けき山路哉　同

宗牧九州下向餞別

わかるゝ哉よそらに登山に衣乃つゆ　宗碩

雲にねまくはゆふ袖かも山路かれ　宗牧

ねまてかは山ちのつゆや手向草　同

夕露をきりやしくめあきれ雲　同

盂蘭盆追善独吟

はゆそ玉むすひとめ思や世ゝの秋　昌休

あさはゆれ松乃影あまきひくふ哉　宗養

つゆ志けくるへしと此世れはしめ哉　同

下草乃ねまいろふりしきりのつゆ　同

そめなかもはゆれ木のまろ夕附日　同

秋や霧やみきりの霧のふるえてき　同

落りしやはゆふそ見えぬあしし哉　紹巴

木乃海を露のいろに草葉哉　同

松ふり露志ら玉くさをひくな那　同

はゆハ袖にある思をあらん夕哉　同

こけりつゆ松よりたちて色も迹　同

露もけも分し跡ありへうれ山　同

秋なしぬゆふ為たまなれ袖のつゆ　同

そらに水ありてや捨く名はゆ乃庭　同

年をも家ゝくさゝそに庵れはゆ　同

はゆをみまり水の衣いかも哉　同

ちりひもれ山志くさ霧や四方れうき　昌叱

追善

紹巴追善

とふあとや海人のみてさまの袖乃浦　同

きく露のかたみにそせきえし道まつり　玄仍

逢別山伏

袖乃つゆもすゝ吹の葉はかなり哉　同

霧

竹

瀧つのしきる里よりたちて山の明し　心敬

新撰

下草に月のぬるを霧まの木すゑの哉　専順

夕きりの立れまとおく秋来かし

園

山乃端を見ゆく里はあしさうか

聲

あさ霧にしくゝ雨はしかもしさ哉

夕霧とまれ乃え山は千しなか那

風いつく朝きり空のし思乃まゝ川

あさきる里やそ夜のうへなる秋は海

きりに夜を月ふけてゆるふ杣戸のれ

みとくさき江ハ朝きり里乃かゝりかな

浪やいそ子さとをきりまの隔した哉

あさ霧乃上りみゆさはたゝ山の端

山見えて霧にまよはるあさ戸哉　宗祇

あさきりをたえゝく松よの葉の道　同

霧のまよく川　風清しやかきうけ　同

きりのまよく朝川わたる瀬わかしか那　同

峯まてかゝる里し清き朝日哉　同
あさきりにねくとのふたの森哉　同
紅ゐなるの松やうきし海あさきれうさ　同
あさきりは川を名残は志ぶひ哉　同
ふねみえてきりにせとこす嵐かな　同
あさきりは山よりさきの山路かな　同
露よとき霧りあさきる山路かな　同
きりはれや立及ふ富士の秋はゆき　宗長
秋の夜のきりにさ山はすそはかり　宗碩
秋きりはふた瀬や川こゆふ附日　同
あさきりのたくい苦せぬ松本かな　同
あさきりや色くれことのも秋は海　同
朝きりのうき草は清し秋は川　宗牧
むらかあときりにこ山のこす哉　同
時ふ間をちらす楼の霧のこすゑかな　同
うら波のはかさ人霧のまろきりかな　同
見ろのうらにこくうき霧は鷲山哉　周桂
朝きりや雲井の村をこのれまの川　同
山の川こあき夕霧の木をこゑかな　同
ちり見えて河霧寄き紅月かな　同
朝きりのうゑ色かハの川瀬のな　昌休
あさきりに山をこゆるゝ木末かな　同
手向
みちはかみしきる間なかるは山の道　同

あさぎりの海すゝしあるゆふくれ　家誉
風みえて須磨きりわたる木葉かな　同
雲きれてそらにありとや雨のくも　同
はつ花や梢なることしきりのうち　同
あさぎり里乃まぎるゝ山のまつ哉　紹巴
うつろふやきり里より上乃峰もと也　同
ゆふさやき里の内なる海すとか　同
門前はきり里乃うへゆふあかりかな　同
あさぎり里乃山をあそひ乃うみへ哉　同
夕きり里りみなきみ松を新え也　同
咲見けくきりすやいく世川下風　同
あけぼのくそら朝松ゆきり海也　同
須磨きりの立をまよふぬ世の跡かな　同
はさ夕くきまちうもき里れ絶かな　同
あさぎりの山深くさとはらし哉　同
あさぎり里の川舟やなを九なる浮　同
朝きりありまゝ川ほとりきりひく哉　同
きりのかれ岩ハ野中ノ海り霧也　同
海くるゝひくき里まの瀬戸かれ　同
あさぎり里乃入海うくれ木のみるかな　同
よひなさの濱名や旁りわくしか　同
ゆくれもあさ川きり里の流たえりか　同
秋きりや絶れしむふしの中哉　同
浪も凌し旁やの秋哉ともあきめし　同

山乃名を知りそらにゆくきりの海哉　同
きりの中の家山やちらりて村をみち　同
海をとをきわたる志川め家わたさ哉　同
こや其路のまつ岩もつ秋を霧海乃れ　同
ながれ里に峯を平にみきり哉　同
そらうけてゆく水白ふきりまかな　同
さゝ山ゆくへそのし霧り高根乃那　同
ふか道乃志らぬやきりに手に松　同
わさ紀里の中ひく網手やとまり舟　同
きりわたる家川世をあけて水の影　同
うちよせて川霧にふあさわたり　同
朝日かけ若きる乃夕きる海かな　同
きりはれく雑用ゆるそらに稍かな　同
きりゆきて湖のすゑたり表の松　同
はしをけをそふれのしまる霧海哉　同
濡くもよる里来家霧にまろきりかな　同
霧ゆきてかりのそらきよきみと里哉　同
あさ紀里の空より音して名も聞し　同
きり晴く舟に乃るやこゝおもし　同
きり晴て海し海めく氷をなし　同
河上をあまはきなる霧海乃れ　同
はし立れあかけうらの海きり間かな　同
けふよりやきり明けて雪ころかな　呂此
山やきり里に棲むこそ疾れあきしめ里　同

あさきりや見をさもきり世な松の影　同
とほくなる里ちかくなき里乃山路哉　同
きりのまに花八重山乃ふもとかな　同
老若すゝく
みすきわれ松乃葉ぬき見山かな　玄仍
大坂天満宮万句
川中をきりにうかひく水の道　同

稲妻

いかつ海の光見打出る里のくれ　紹巴
如水邸にて吉川殿興行
稲妻のきらく人の浪もうさき夕かな　玄仍

秋鷹狩

小鷹狩ぞ人ありかりわかて
あきをこらん比を狩場にてたかくまで　宗祇
花あるにきふそいくのゝ小萩のか里　同
そらうけて行しそれすゝのかゝ哉　周桂

槿

竹
むかふ月いうさわさかりの鏡かれ　宗砌
新撰
あさかほやさめし徐去年乃ゆめ
露をみても世は網かかのまかきりの那　宗祇
結ゆるかりしなかりけります恩秋の花　同

来ぬ内乃宿やあさかほ一夜の里　同

朝かほをなかめ月つけよはかな乃住也　同

自然斎年忌乃會に於て花を手向

分愛を一事ほ思く

あさかほほゝぬれ花のまへ見哉　肖柏

朝かほをむすひやとめし花の住ゆ　同

いつ見よと花をあさかほの夕月夜　宗祇

花といへは朝かほのえぬ一夜の里　同

あさかほをうつある花乃秋の道　同

朝かほまありへは色を風の影　宗牧

あさかほとさとめぬゆふさけ夕月よ　周桂

あさかほは露分の花乃まつきり那　昌休

あさかほや月数久し萩花さう里　紹巴

朝かほのはくりけをかゆふ月影　昌叱

辞世

あさかほをうき世のかのさかり哉　同

草花

あとれたるはくや六義のあさ乃花　心敬

朝つゆは露をしかそめの時雨哉　同

名もしらぬ小草花さく門田哉　智蘊

さりときて秋をかゝりし秋のゆふ暮　賢盛

秋の野は千草の花のえやこかな　宗砌

川の瀬は吹あけまふはな野かれ

来の末と守残りうつむ花野かな

野人見まよふ虫りしありしを花乃法

壁

秋乃草ひとつ花なきゆりもれ

一花まひらけ思ふ照ゑ千草かな　宗孤

其花まの世さ花の思ふ花れ千草りか　同

花入り咲遊きちの流のちくさかな　同

うきくさ花世をそふそふあれ哀りもれ　同

秋草イり花の仮ゆち尽汲くろうか　同

きれくさ母花を見すそふ折てかな　同

草庵ふ人てき来ゆし母

世ふ人をぞふやはか野乃あきれ庵　同

虫の声あそれ乃ます世ゆふ宗乃いか　同

月やよ夜花うきくを浮野人の露　同

野近見けハ風ゆそく毎了花ゆるわ　同

小野秋満樂乃舍ニ

この野なる花てふはかやも向草　同

武蔵国ふゆし時

秋茶遠やこのみ入りく花ゆの里　同

むさし野ハうやをと花乃ゆかりかな　同

志賀ハわたりまて

流りさけ花そ見とききあさの海　同

ひ流くみよ民乃草ゆ繁れ秋のまか　同

みうら野は参らむしあろ

ときてふ来春の見くあきれ花　肖柏

花よりも色よ秋のくさならぬ袖のゆかし　同
朝きりをわけてこそみれうつろの秋野ら　同
ゆきかより花にしくらく野のせぶ　同

採列夾浦宮子句月

なまめ人ありふをそれ乃あきれ庭　同
志らぬ色せし人をまちゑ跡れ花のうか　家頑
おくらし露よやさゝの花野られ　家牧
あさみどり松もきりさのはか乃就　同
咲ゆのみわりまねき乃ちくさの郎　同
まかへ露もよはし草乃そなの庭　同
さくや八重なくて乃へちうなの花野ぶ　周桂
うすき色れまうきにちのき野幾　同

家養真珍壽菜三吟

露を袖れまおひ石ぬましきに野ぶ　昌体
秋の野乃いりをもかの海うきされ　同
分しのくそなのあら思ひ宿乃秋　家頼
まさやきひとつよ草紅葉はか紅葉　同
名を知くれちさん手きれ花野の郎　同
ちまたにおさう思草葉も花野幾　紹巴
ふりてまそ入みさき花もく花野うゑ　同
う人なうぬ庭やいくりくそれの露　同
咲そふやいく百草のはかゆかり　同
海くうすやせかくとこ乃花野幾　同
花しく跡ふまそりのしらもうれ　同

ゆふたち道のくて尾花花野かな　同

山乃色やもよりしくされ秋さかり　同

かゆりそおとをわすまん花野かな　同

咲花うひくれのさかりを千種かな　同

ゆく宿やまたのちさきにもとの色　同

一いろなきくやゆく草をなのやと　同

津之国はまけなんとかれち草かれ　同

秋の野やゆく花くふまりあらを　同

手折来てたの孫を秋のなのかな　同

あさ草のはなしうりそわかむわれいろ　同

朝よ同不り屋やわさゝめ花野哉　同

咲花つきてひさしき草の千種哉　同

ちら海やよとむ花乃く秋の三川　同

ときめく家はかく知し秋の遊　同

うそきる里の清くみなそ堂ろ花野哉　同

従三井寺亀海京立歌として
南都旅泊ゆう守白對一

分かへりうてそまつしま花野かな　同

見よしのく花よりけふの里秋の庭　同

散ゆしとたく手海くろ乃花のかな
ひえの山まて　玄仍

薄
付尾花

あされ野の花咲くうしく宮根かな　同

秋とはたゞ朝露るひくすゝきなりけれ　宗祇
萩やみんまさりし露れむらもくな　同
さ面をまふひ給ふや時雨れむら落　同

名号連哥に入り

なすくしふ袖乃清ゆそふ露か那　同
朝きりのうすき花すゝきの穂ぞなし　同
秋乃月やうそ木入乃くもかすゝき　同
なかこ清ぬ氷を越えかのもゑ野哉　同
落ちりまろり霜ふるいを根のれ　同
根やひとついそもと落さるゝきむさき　同
さく花浦しいろを紅葉川まはかり落　同
さそゆまてゆく村すゝきあきの風　肖柏
もろともやむま待らんしれもゝき　同
そてや秋たち入りしそ待花もゝき　宗碩

草庵にて

宿をあきち雁とてふの花すゝき　同
白いとを引くや海そての花もくな　同

登蓮法師絵まて

さらまゝ又秋やうへしとしのすゝき　同
風ふかひく月や山のはそろ尾花れ　同
あき枯乃な花れりのこをりくれ　宗牧
かのめのすゝきにいそく飛野哉　同
まち出し雲の河さ霧のを流れたる　同
の穂やせく秋花なすこよ宿れま川　同

年経てもしら花かなれこそ住かな　周桂
さしめて於五庵羽次
やまをせよみるやかよひちをれ落　昌休
山科にて守拙宗理
かけや水なきよ秋風のもつれはかな　同
むかし庵露そろ茶く袖乃いとすゝき　宗粮
みちをの嵯野やすゝろひしいと落　同
此秋は入日やまねくをかすゝき　同
千草まで見るとをよしや神招花　同
うそといふをすゝきを露のゆら哉　同
うへそくやむくなの色は花もくき　紹巴
きりはちをうなく山花聲やをかな落　同
花すゝきかみつまあつきまぬ来聲の那　同
やをかなくれ花りもとの名残りれ　同
月や入おもいてみしをきれすゝき　同
深おきされよ志まなきよふれ花かな　同
月の入山もれそれりすゝ野か那　同
此人をまねくれそのゆゑと哉　同
聲ふみをるひけそのゆうお花かな　同
沖濱の楼れそかきうへ乃聲風の那　昌叱
はかすゝ糸をみ我とゝまりの里田哉　同
きゝ里山ふく風やくり出此糸すゝき　同

梅紅葉

菟 く袴かひとかまれ忍梅のをみちかれ

新撰 むめやまた一葉は緑乃えんのみち

竹 梅かえ残る紅葉秋なる木は葉かな

くれなひの梅かえうつる紅葉かな　宗養

世なれや秋知る色とはさ流のみち　紹巴

秋をまつ先色梅むめはもみちかな　昌叱

採紅葉

ゆくもまたりうる流に葉の色紅葉かな　心敬

園 なそさくら花やくやしきもろ紅葉

あさめえもうま花そめはゆくる秋　宗祇

秋乃えもさくるも花のみしきり那　同

紅葉をふうろひろ人を行くる秋　宗牧

さ花乃色をさくらは紅葉ゆふ　宗養

おちそ葉ゆくくれなゐのおふ桜かな　同

女郎花

女郎花こそゆきく残ひとの野　紹巴

雅袖をふまくりかひくをこなへし　同

蘭

新撰 あさんきの花すやをまろ菊その海

露やすあひ野をうも色は菊はりな　宗祇

菊や玉をかなのすそひくふちそかな　肖柏

秀み聲やうちはらふ花乃露をかま　紹巴
むらさ紀乃匂ふてふ聲人やふち袴　昌叱

刈萱

ぬきてみん夜やかるかやはゆれ宿　宗祇

秋田

堡
うけや秋まさ田いろ津く思乃まゝ
秋を霜をまたくともれまさ田かれ
山松の木のまいろはくあき田かな　宗祇
・筑波山乃かけわうまく
や夜半のみ雲をそすまの秋田かな　同

吹しくらいなもの雲れや夜をあし　同
あを深さひえなやはし河をいな蕊　肖柏
露りれとこをれかつさく早田かな　同
風ら露をもし孫まのちろ秋たかな　同
穂をとふを落かみあさ黄りわたかれ　同
うれく出れいなをやくをれおや道　宗牧
里ともさ山のすそ田乃いなそうかな　周桂
かりい那て庵と残をなる門田かな　宗養
秋まあき重孫て加らんたのこかな　紹巴
ゑてふかりあひの日せれかなくこゑ　同
やまのまさく来雲ぬるいかそうかれ　同
かなあとに水残す町乃や夜たかな　同

をそくとき苗代志水きりの田のか　同

守なれ水世紀のさそゝ里たかみ那り　同

おまいてくる里わかその稲え哉　同

青柳も秋をいろ志れる尾たのみれ　同

稲くさの揺みえり見ゆる小田かな　同

そよ物も草木とみえて山たりか　同

いかにした庭を小家も雲井かな　同

秋のくるさへより法いかにそ哉　同

山もと雲井にあひくいなき哉　同

色みやくか来るひのゆひちの那　同

里ゝにそこふきあまぶいかにそなれ　同

秋くさ比色ありいろそふ田面哉　同

とふ溜をもけて雲にひくいなもりか　同

そよや風ふけそる里たのいかにそ哉　昌叱

葛

壁

風やあきうつめはしく葛葉かれ

松見えはのかをいろはく葛葉かな

見れそ秋をは葉をかへる知へかな

ほのかしけへ家残松乃く毛葉哉　宗祇

とよす葉ふもうへ流さらさ流山路哉　同

松の香に松をこめまくも葉の那　肖柏

高くほそふかなや雲井乃峯乃松　宗碩

風やあさ神代乃松のくれ葉かな　同

いく久かへりくち葉の千代乃秋　同

月はのなかにも人そむかしや秋の風　宗牧

風やあさ玉まくら乃人をくすりの那　同

そめし秋を恨み乃人よ紅葉哉　同

餞別所望

あら磯をもやとはし風乃名も象哉　昌休

志賀山乃まつ風見は見は葉の船　宗養

くれ竹の色をうつみ乃くす哉　紹巴

うら風をまちとる罟れくはそりれ　同

まくらをも庭にすむ虫の声を切那　同

苔蔦をわけみちをあけ乃いさ哉　同

野分

うちやや野分あとはゝかゝの露の明　宗祇

雨そくれうちや野分にちるゆふ色りに　同

露もけさしく拂もり里れの名紀哉　同

野分行人まつ風まなるこやてうれ　同

むら雲りはふや野分こゝは松　同

野分ふくるにやむらくを秋のいろ　同

ふけて花行くをあやまくれ野分哉　同

いはをとこん野分れしか乃朔志あ里　同

花よみんれやのわきのあさ志あり　同

袖よりあそらきはむ衫のまれりに　同

花になびかれなふうてなき野分かな　同

野分せし花のふりとやなみのふまり　同

うそくらくちるをのまきの下露か　同

花のうへに見えやのまき乃庭の松　同

ちりさむ庭をのわきれむしさ哉　同

萩のこゑきくをのまきのとだえかな　肖柏

咲まつひ雲も花そあれ野分かな　同

うら見さん花はみしかくのまきかな　同

三山本り秋乃素ちそれ乃まなか　宗碩

ちりをたよ見さまし見れ蕭風のかな　同

咲来ぬや蕭風乃さそひ峯のまつ　周桂

若年人壹珍遊善り

世ハ花のさかりもしまの野分かな　昌休

萩を並て草根をおりふし蕭風かな　宗養

久しきれそらにちさくのまきかな　同

あるをなびくやむハ千種の野分かな　同

花なすぬ草になくらむのまきか　同

野分をし山もと遠し夕月よ　同

乃まきすやあけてのこれ初紅葉　紹巴

ゆふを千枝の末すゑハ初恩野分哉　同

のまきけ人志ら思やかあふ花乃宿　同

山きいまそ野分や庭はそれさう里　同

きくのそろそれとかはしひ野分かな　同

はりまつ花にわやなき野分のか　同

三山木乃はか吹のかみ苦風のれ　同
蝉ふりてまつ三み乃竹やおれ川の里　同
花にあらぬかへりさ淋そふ苦風ぞ　昌叱
花くの根もわきてさん野分の那　玄仍

月

月みいそき月入りわきに帰く那ぞ　心敬
月を出と網と綾山やうれもくみの那　紹温
里まよちりまるるや風の秋乃まかせ　賢盛
荒
山のけをいりぬ不月乃見え思のれ
月の秋ハ家のきえ志りて明ふ夕り
庭入り三そ月のうらな蔭蝉山のか

入と見えさまき月乃こ風雲間のか
新撰
露をいさ月よそ草ふむをひされ
竹
みその
月いて〻まるるまさ帰く夕の那
先わく月りまさ家てゆふ岳かな
きりわまさく月さちの秋夕のれ
まさの秋ふ風の白峯雲をふし
半天入り月をいそて夕風三や雨のか
月みこひ月入りわきふり那か那
竹
見る人といろ有る月乃まるるのれ
くさ風秋え月よ見ゆ人きまふ法
苦さ雲を月をめ家萩れひりるのか
くりりぬ月の心り乃木法のれ

園

あきのそらて行らて花なる月秋の那

月入り吹あきの聲かそふ雲間りかな

定まる里や月はちきりし聲人の露

若山のみつ房やかはの秋秋乃そら

月や秋末れまのかのれそらの眺し

螢

定まらずけきふよわ月乃そ流あらし　宗祇

あきと吹まかの聲をそしゆふ月夜　同

みしまりの夜の舎り

今秋とそ孫てやまなさん秋乃流さ　同

流うれしるらや末れなそらの月　同

ひさしくれ山ひそめそよわあきれ月　同

草も末も月まつ露乃様ふ庵かな　同

ありそめし世やひさしくさ乃秋れ月　同

住吉社まへ

わまミてもいく久かくさのあきの月　同

大神宮法楽乃千句よ

神代よをかくやまめぐるそられ月　同

白舟人のひつりや月のわまはそて　同

いつ清まる聲ふやひの里秋の月　同

いつよわをかもくそのやまの秋乃月　同

雲ぞつきひの里やそらふの聲か道　同

むかし里そふ月を阿し乃をなのれ　同

ちらし雲を月は秋わきあらし那かな　同

宇治まて乃舎り

うけや雪山とよそみのあきれつき　同

越中にくだりし時

あさ立て行く卯の花山の月の清　同

を添月に鳴くやせ紀のとなみや海　同

をはすて山まで

あひにあひぬをはすて山に秋の月　同

れはなしにすぎく

くもき里と分しみ見の山路かな　同

清見関乃辺泊まで

月そゆきてにせ紀かれ清見がさ　同

や連穂月けさあき風のおとのうき　同

波やうけと残し海ちかき夕月よ　同

佐くら木に下りし時塩浦ならく

月よに河中ふしかさむしあ紀の海　同

月やのは河しそよく河乃あさき水　同

えにのをうつ為て秋の月の道　同

月のわと氷をおく波乃そらめ那　同

十日の月と

名を知るふるの月のくもゑかれ　同

名号連哥に

名やかるこあけまなる雨きその月　同

戸さしせぬ在にも月見ぬ里かな　同

さとけふ月まおく波乃や連里む　同

と綱にもと積まやふりし夜すれ月　同

朔きつるまてり月を秋わくさ流川色かな　同

水のまゝくまに月をむかしさか那　同

うたゝきゆの月や春の秋あきさからけ　同

峯こせと雲引風のむかひか那　同

待し夜はいさよひなかへけさの月　同

月見けさ椎乃葉さむしふえや夜かれ　同

くけや先山のそ越し今朔のつき　同

朔ゆるけ月そりわかみむかる星哉　同

月形ちて雲井にすゞき朔月かな　同

月をえやむかしくゆれおしさ心　同

かすやてん月よその光秋のはめ　宗長

まめそ月いとえぬ雲はまちひか那　肖柏

七月六九月自然述吾ゑ

ゆゑふ見けさや人乃世あさの月　同

かく思まて

月影をむちりをやえすゝかあきれ也　同

ひえ乃山にして

太ゝけや月をすくゝ何しくれ　同

旅衣の山乃色まて

うつ波ふよや夜を汲ゝ中秋乃月　同

清見ゑとまりし時

月乃ふゝ今朔うつ浪乃きよみかる　同

夜乃うろまて

えそわり思月を二夜えれそまの秋　同

中將天満宮にて

月よふけあふ乃菅路なまけの夜　同

秋乃すゑなり

うけふりいくほとあけ乃秋の月　同

三山乃月のあらし哉

きむや立まゆの花く山のはの月　同

くれて秋つゆを契るまを千入りけ　同

かさしそて見るやわさ津を秋の月　家頎

みそらゆく月まてきよしあきれ水　同

草葉りを入ぬるいそれあさ乃月　同

月影をいくたひ見つるあさつゆ　同

いろかよふ月やおりし名天漢の里　同

月やふるいつ川に秋けそふみちの風　同

かるさとれ月やらて世れ狩の草　同

三こゝさへ西よあり明の雲間かな　同

三井寺にて

夕月ようこちしあるまゐりれ　同

宿所いく世みうくまい法ふゑれ月　同

久り来て匂ひ又てら世夕月夜　同

言やいつ川打波の夜乃月のあき　同

都出てさそふ来れまの秋乃法さ　家牧

わすれめや月雲西とのとまりかの　同

月見れて叡山をあまつ雲井かな　同

夕月よそらにきれさて話之者ぞ　同

うけきゆるそらや山のはゆふ月よ　同

いりふさんくもゐをもれし月の影　同

月をきく孫さるよそま川ならす哉　同

まちおしむ雲まやれなしゆふ月秋　同

ひかりして月もろとに夜雲行かな　同

かそふまては玉よは月乃みきえかな　同

くもれるも月のうちなる千里かな　同

あさきや月をしるかきのと海里かな　同

みる人乃ほか夜は秋まあきのつゆ　周桂

月そほむかしの夜はなき心　同

・将軍洞字號中下向之人与行よ

まれぬ名や川くもつゆ乃郡人　同

さしなるや浪なすしぬなきあきの月　同

いさよひの月は名のみ木間かな　同

月そまさふけゆきこしそさ萩わかし　呂体

秋まの月たゆにほのあけの雲まかな　同

・中山まて所望

秋乃月さなからゆ舟はこや海乃郡　同

まこわくし風見のゆくゑか松乃こゑ　同

九列よ里上落人與行

きりやいりふくし風も月の秋乃浦　同

庚申夜

いつよ難孫てしらねまし秋も此月　同

尾列太山書三所望

河音やきこの宿つ秀乃山下風　同

中将天満宮手向

松入り月のまつりけそふ末れま哉　同

舊友餞別

めくりゆふそらやさくまん月の秋　同

月を秋くれてみん秋とゆくゑかな　同

ふて思ふ月そくもを後とむかしかな　宗養

夕成るこの月を神代のひかりかな　同

むかへをなは江乃水きよしあさき乃月　同

かさりよ遠をよわさし京月乃雲井ハ　同

うきさ秘月松れ於もりん代ゝのあさき　同

四乃をや月ちむよ陰のあめれしゑ　同

そらにこぬむら雲はしり夕月よ　同

常見えるかけや神代乃光れ月　同

きり海ゆ月そうつれる絵島哉　同

夕月よおかりへをあさき乃雲間かな　同

夕かせや雨氣分つ秀をむまとの竹　同

月のうちみいにかき上け桂かな　同

月を見いよ陰のましき花やさり遠　同

流志ゐしきりやこを宿中ふ月秋　紹巴

月よあけて川きさとほそ網戸かな　同

うき草やみそれ月のそら乃雲　同

山水入月をくるゝとろとかな　同

風の秋よりまさて波よ陰手きとりかな　同

わさほこのなみやうらの夜ふ宅ハ月よ　同
吉本ハ桜乃咲さけし白し夕月よ　同
うけわちて月ふ水ゆくき里の那　同
浮ひさる月をいくすちふねと川　同
ふはさ人やつゐの度舎みなと小家　同
磯の松川本すゑうら里やゆふ月秋　同
ゆふ月よ入あとさ浪ふ船のまうれ　同
月やゆふゆふきうわさ浪あきハ浦　同
わちてゆくやとまやり乃はや流川　同
夕ま暮もあらつる月の雲の稲式　同
好みさハ山乃をいつこをうハ月　同
やみしくを月よりいつ川そ秋の里哉　同
山乃をやたなひく雲ハそらのつき　同
入かさのそ山ありさそ浮月もうか　同
月きよし雲をかをよりねさ家と浮　同
那りそハ松川やゑつら川の橋ふ月よ　同
山たかき月のうらなる東すゑうれ　同
山乃をハ月やいさよふ人あく浮　同
月ふかく浮よはをあえなん山路の那　同
あけさ月をちうさ乃へそ山の影　同
入とえんしやふもとハ曇り月の庭　同
影あまやわりのもをまくれや雲乃月　同
秋の月わちを浮ふふ夜とうらか　同
中にあるをさりくし月の宅ハ雲　同

くもは入つゝ吹く人を河しかな　同
さらぬめよひかけぬまの秋乃月　同
入そらや椎乃葉かけの秋まれつゝ　同
月よくし里やひさかた乃雲れ上　同
雲を連てさゝま里ゆかに秋はの月　同
入かさ乃そらまや待しけされ月　同
月そいる海よりんろのゆく心かな　同
名遠しくてあけの清さ月やすゝの袖　同
罔ましよ月をむ秋はさゆる雲かなし　同
月かけのさし掛る戸くちかな　同
入ぞらん門ふをしるよそらの月　同
乱る里そふゆく末と残し夕月夜　同
めでハ萩も長月を過つかた乃ゆかりかな　同
雲間にもさりてかそし今宵乃月　同
まろ人乃はなしにも庭ぬつきぬ道　同
前のそらけ花や是しるあきれ月　同
見よやみえ那しもれなしそらの月　同
ゆり月にもまく遠ぬ人乃はなしかな　同
めぐり合くもしよわを流に秋乃月　同
ゆく風のむら里にまよふ雲の影　同
為のめいるこゝろや月乃こゝや人　同
ある夜を里と月もたひ旅の宿里かな　同
むろ戸をひさしさし月をこゝろかな　同
かきりなき秋乃ちぎりやそられ月　同

あまくしやまのはにみやまの月　同
まつたのミつゝに洛ふひくむかれ　同
入と見えしくもなきひきそ見れ月　同
忘りし富は雲にかゝりしそ宅のつきさ　同
此月乃そらかく程せしくも残就　同
秋の夜は山に入て涼し海との月　同
見しれ峯入あと涼しそろれ月　同
はらあけや杉のかまさまろ夕月よ　同
年乃内みかえるねや常そらの月　同
夕月夜み会見れ正まんみきり哉　同
末は海まそこし宿おりへあきの月　同
月のいろも秋にをきそめれつゆと水　同

ありぬらむ見よとやいまはそらの月　同
入と見えしむこ後や月のそらはくもと　同
うけゆゑかり別ゑたのをしそらの月　同
うき雲は此すゑ常にしそらの月　同
積もりしあまあけふにみん秋の月　同
かゝりあま迄や秋のよも入そらの月　同
くらきよりくらきぬ道や宅の月　同
そこに乃人のむら後をやせれ月　同
月よ弱むかへんをまいせれ路のかれ　同
あきの秋も月より後の雲井かな　同
入と見くうさ世ゆし人や秋のつか　同
秋の夜をうなつありそらの月　同

なけうつも月やとも吹むらは内　同
なけかそしみちなんとその夕月夜　同
月に雲切らるゝ比忍ありし切那　同
下間仍遊行遊善君号三井寺すく
なとてかく秋をこゝしか夜の宿乃月　同
遊三井寺急海京已後於東山應其
上人與行
関いりてまことの風月のあるゝ里哉　同
おしむ顔よ入を惜いたふそらの月　同
なかめいるあゝ法も月乃あるゝ里哉　同
ゆふきりの月やと哉山あきれうさ　昌叱
そゝろ月うつもなれは法切那　同

見えてみん月やうつ夜あれあきれ偏　同
八月十三日
見れてまつ川をむ秋乃月は雲井哉　同
山とりの拙乃尾ふかく祝秋をれ月　同
東よ老入てふつ易哉こや乙切那　同
定家卿懸字開之會ニ
宗の月やあらしさ見ん爲筆の跡　同
つきや知や空はゆく忘の千々乃秋　同
こよひまてあまりしく分くや月の秋　同
高野本會上人在洛ニ貽此與行
嶺しえて都しやこゝ山あきの月　同
七月廿三日

夕つかた秋わりまかし秋のいろかな　同

山かけのさえせんつゆ乃たかゐ孫式　同

涼しさむけきいろまり花の須　同

あれあけの月ゆきかふらんや備中道　同

一周忌追善

ともにみし秋かあらぬにそらの月　同

よゝ波の月かけみてさへみさきもりぬ　同

住吉方句　月

きよれまや河さ游とのしあさ乃月　同

芸州大明神まて月次始ま

三川夕紀や月も光里ともまれのし兄　同

丹羽にて八月十三日

はしそてや柳く名をつくさ乃都の風　玄仍

丹羽にて八月正日朔

月よあけて波よりも上八そらもなし　同

八月十六日大宮の月音羽山より

わか家に月中あみ松乃見ん名乃家と　同

世そふや月乃かゝりにうきを乃まつ川　同

秋へてもちかくさもしらぬ月もあれる里就　同

并河金右衛門肥後旅

しらぬひ乃浜くしふるらし夜半月　同

同国旅

さやふや又わかちりいさよひに月乃夜　同

南部旅宿

天乃たゞ川くりかへし添ゝ此月　同

秋ハに毎年孫思へ哉まれり秋乃月　心前

名月　付十四

なかめつゝ月にわすれて今宵かな　心敬

名月えまちあとりし知る月夜哉　祇阿

月よくし夜こそれの中ハ秋乃空　専須

名や月の里こよひ斗乃月をみし　宗砌

荒

ぬくひなき名をもち月ハ秋かな

十四日

あすの名に月をはやそとおもふ夜哉

名にしも今宵見ぬる見のこよひかれ

新撰

神と月むかふ里ありて次今秋か那

月の色ハ秋の初のそれもまさる袴の露

つゆのまへ一夜乃まつ乃木乃間哉

月の名に見山かくまて初の里かな

流さき乃名の高数ても見る見か那

月ハ名のこよひにまさる秋もなし

月こよひむかふ里まれハみ乃うしみ哉

あけハ又川かへ今秋あきのつき

月も秋あきまをこよひれ一夜か那

園 あき 入

雲きりを月にうくまてあこよひ哉

竹

月やあくぬまてさきなき今秋哉

月みきむ人そとも秋のそらもなし

名もそたゝうつりや二本なきの月

月にかけうつり名を先出る家今秋の那

月こよひなかしのこそかれ世々の秋

ゆくすゑを宵やいく秋なきの月

なかのはとは月におもりぬこよひ哉

あきれ月なをこそゆれけれ光さへなる　宗祇

月のかと雲井よるの縁ひかりかな　同

なそ宿き月やうつりをわかれ流らん　同

古綾なれふ人よくもみなおもかの月　同

ちよひまゝで雲をなをたそ秋乃月　同

生とるあ世のたえたゝし秋の月　同

一筆のうけやをもひまよふ乃月　同

秋れ月こよひちとちよの物の里物那　同

名经あよひなけかろきなすらぬ秋れ月　同

こゝ係ありて月見を秋乃ちよひ哉　同

秋こそとゝのもよや今秋そらのつき　同

京極黄門墓所にて十五夜

あけそみの清りはこよひ世ものの月　同

十五夜の蝕ありけるに

名もはふつ今秋をくを残あきの月　同

のこる影を月ふかそたぬ今秋の月　同

三や夜ぬるもこよひそ月のこやこ哉　同

月やちるこ宵はそれ〳〵とくらし　同

名は今夜わに持りふ月かありし酒　肖柏

神代よりえしやこよひの秋の月　同

海ふく名をいはふくなりし秋乃月　同

かゝる聲まで　同

名やあふ世月を一秋のあまの川　同

一えきのえつるやこ宵あきのつゆ　同

あやすらひ月乃はかなく草葉まで　同

大ぞらは月乃かゝその雨よひかな　宗碩

見ぬさとをうらやむよやと秋あきの月　同

月あまよひ玉をひろひんなみかれ　同

おもかげやこよひなかるゝ月を哉　同

月に雲かゝりもつけしこよひかな　同

四方は名いかれ[illegible]嵐の雲行ぞ　同

今秋ゆくよりの世もいつの月　同

名をえ流となるはいくそ秋の月　同

十三夜

月を秋くを添はるはなの聲にぞ　宗牧

月はる残末乃まふ知るこよひ哉　同

月蝕の心を

見てこの世なくあそこそ見め秋の月　同

さそふなよ月を露中乃あさの水　同

うけをこよひ風のみ山えふかき哉　同

月乃名にうへをとくる乃山をかな　同

あら波より月のあたら添きこよひかな　同

十三夜

月も名ハ代ふるその夜乃むら雨哉　昌体

今宵やハれなし雲井にしあきの月　同

あふひさま見えしをしとらむ秋の月　同

今夜なまめあらはつけ初し秋の月　同

八月十五日相刈すく

かけを残にしみちくらし秋の月　同

八月十四日

まむをかけあらはれやのこる秋乃月　同

めでてあけの泊ゟ月そ宵ゟに　同

まつ時をまつ秋ハ月やとこよひら　同

はなむ行くら月を今夜れ見むか那　同

つきこよひ見てくら上れむらさ哉　同

今宵そ見初しや雲のあきの月　同

月こよひ清れをれちらむらか那　同

雲をみんよなかのき月ハ雲をなし　同

ありあけにえともを月そこよひ哉　同

日待乃夜名月に

月かけ行人まちいり添月の光哉　紹巴

月こよひおりへえかそ添ひら哉　同

閏名月に

今夜ふたあつ秋やえせぬあきの月　同

月をあそ郷ゆそなのあよひか那　同

月ふよひ初りふこゑなきひらり哉　同

名雲のさやれすめく乃夜ま乃月　同

月にたちあらそはくたの高根かな　同

月今宵山はきこやあのそらをなし　同

おしむなよ今宵あけてもあきの月　同

みしてみそ月をうらみんこよひ哉　同

入あとまかやしのらゝ秋のつき　同

壬八月名月

こゝしまはおしむや今宵あきの月　昌叱

そらやはらぬと宵ひかりまれ秋の月　同

名や月うわ月こぬ秋乃秋ぞとなし　同

十四日

月そよむ名ハ今さてあるまよひ哉　同

渓識芸宗院にて和漢

月に名をとらへぬをよむやとくらし山　同

月を秋乃ちよを一夜それこよひかな　同

於三井寺名月

月によひそまて三井乃清水かな　同

叢紫下京より上京に居住乃後

やとりへこゑるかを月を今宵かな　同

十三夜

菟

長月の月ハいしかりし今宵かな

一秋にり二夜乃月の名あり哉

あけにしわ又つ名れよの秋をりな

月をうつしてりそふりれ二夜の那

新たなる名をはかりそふ月の二夜かな

こよひかのをしめゝさき月のかけ

月も名をとりき孫てなかきむかし里哉 宗祇

秋をつきなのそふかく人も今夜かな 同

名や思ふこよひくもらし秋のつき 同

なにえてもみちぬやこゝ後秋乃月 同

そらによ残るよひのまにはれぬ月も哉 同

今宵月あかのはさをまつあきそかな 同

禁裏法楽想の事にて夜中乃

流会に参給ふかとも 勅まては

かうまはり待九月十三夜に

そらに要くみえなよやいつく世秋の月 肖柏

高き名をおもひもそへぬ月のゆふへかな 同

名にめつる里くまもなく月乃一よかな 同

よしや月なかも世にみてことそ秋のかな 同

霧くもりけに残りけし月乃二よ哉 宗碩

くもりし秋見さる里も月の今夜哉 同

寸月あまり三山やをらむ秋あきれ月 同

うすのかれ名をいやたかし秋の月 同

月あかよひ見し一本乃うつりかな 同

見しこよひ二たひいてし秋乃つき 同

今宵よ残乃ことすそひかりあきれ月 同

まちぬる志乃りぬ月乃今夜かな 宗牧

名をこよひあまの里ある世や秋の月 昌休

今宵乃こほれとやひとりありきし月　同

二よとも月に細まりしあきのそら　宗養

方の月のひかりあつむる今宵かな　同

名あそわまた秋ちかつ月は秋乃空　同

なかり世は雨まして海さる秋の月　紹巴

いやましのかけやあまひの秋は月　同

月こよひ見てなとくもる雲井哉　同

はれ明ぬ見ぬをこよひ乃うらみ哉　同

ねかひそふ名やひさかたの空の月　同

花ありしこよひ乃月やなそくらう　同

十二月

あきは猶照らさむや月にうきは雲　同

山乃なや二たひはしむ秋なれつ方　昌叱

竹　新撰　あると　入　壁

雁

柳ちりかゝるとさむむ川ゐかふ

かり帰りて松に雲ゆく尾上かな

一聲ありきむやかりかり秋なれ月

菊さりけさ雲井乃雁のこゑかれ

なみ流るゝやこゑありけるなきつ露

かよそおくさひきやさ風花すゝき

またれたにまちいてんやたかれ声　宗祇

かりきなけ空のあきは山乃夕月夜　同

かなともなけ萩そなかはの秋はこゑ　同

かりそなく聲さにそよくや天津風　同

こゑ打ちて萩にかりなく河しも哉　同

あきをまたぬかひくかりの羽風哉　同

ゆきにけさ音をはかりのゑ風かな　同

萩ちりす河かのめくかりの羽風哉　同

あきりとかにかりをと網にけてかな落　同

かけあれて風聲なき河あらしかな　同

ころかりのこゑや下そめ木々は秋　同

とふ鴈を忘るね雲井や富士のふけ　同

峯あえて菊ちり鴈なく山路かな　同

かりかねを霜に色ある稲葉かな　同

あまおちを霜に鴈なく河しもかれ　同

雲ゐりかね音ちり聲高く山路かれ　同

かりをわけ入るみとせれ秋のゆふへ　肖柏

あかけのこゑやそつかわ天のはら　同

羽音き秋よる里まし人の命に
都にのかりし時の命よ　同

と残りき思ふ里やむく秋れわ　同

かりをいる河さま落りそさのほゆ　同

雲にかりをえてかそを羽風かれ　同

玉ほさふにかふや羽か秋のかり　同

一声かにとむやかりなく秋まれ月　同

と網の網を見ちつけとや鴈の春　宗碩

本のまゝ
かりわくさふ山きりを遠なく音かな　同

さゞ波を峯こえかゝるのつもさかな　同
なきにかわつれさなつころの高根哉　同
と残や戸田今や唐なくけされしを　同

名号

帰る音ゆ人空阿人ぬかゝる乃此世哉　同
秋よ常くをにかゝりかくたりかな　宗牧
朝ぎりのうへ入りうりなく汀かな　同
雲井かり帰るなる雁乃はな聲かれ　同
月の色を変りゆり鳴雲井りかな　同
おもひ出つくを井のほとり雁れ聲　同
なむかふ昔ひとゝきかゝるの変　周桂
一すぢの霧ぬれ風かな　同
ふるさとれ花やとゝのにあきれかり　同
かゝる跡なて別きゝわく川瀬かれ　昌休

餞別

風やつてあきとたのむ乃ふるさとの変　同
かれはなう山をきりまの夕かな　同
かゝるあれと都を秋は末すゑかな　宗養
聲や先かすみのえや浦乃夕しくれ　同
かり乃変行ちていろ流く田面かな　同
月の浪またしやきしゆくかゝる乃変　同
雁乃と山や友しをうかりかなし哉　同
かりかえれ往来とちきえ越路かな　同
雁かえをたよりを折りふゆく哉　紹巴

ぬるかみのしま方乃とせいかな遠　同
かるかきれこそ作こそ世萩の露　同
郭公まちしをりの夕暮乃こゑ　同
なひなるとささひおすかで天はつか　同
かまれしる雲ゆる峯をふもと哉　昌叱
松前劔與似
かりのらる秋や常世は花ゆかり　玄仍

鴫

立鴫や刈田のしま孫くゑくきつか　肖柏
秋は紫のきたきされゆふ色かな　宗祇
立しきを月と見てはゆぬみえたるれ　紹巴

碪

色かひくきぬさや月のこゑやこへ人　紹巴
里とをき山を孫さむれきぬたかな　同
あき風の声うちそふきぬたのこゑ　同

蛩

きりぎりすをしむよはあり思ひ初哉　肖柏

菊

菊をみる月といつきのゆふ色かな　純阿
うつろふを菊ゆくかれは草葉かな　紹𦾔

新撰

庭あり世く水やきくゆく角はの露　孝頌

竹
松人のいのちながしかあきれきく　行助

菟
子世ふへよかさしとそへる菊の苑

行乃ともきくをこてふのやと里哉

園
あく乃人の墨かなふれるきく乃花

きく咲ぬ庭をこゝろにまさこかれ

みちひかりきくや河上菅れにうつ

きく乃目にいはしかも待七月秋哉

積と菊秋といふあきの宿のきく

菊あふてうつ波にそへる花のかけ

きくぶけて野をうつ波りぬ花の色　宗祇

菊さけはみえし一とせれまのをなし　同

きくに今朝よりふやも風かりの香　同

かるまなきて老く霜庭しきくれ庭　同

きくにいわをさそめし露そ岩乃水　同

家くにくむやきくゆくふのゆ　同

竹乃葉まあ紙ふえそ庵んき色れ水　同

年次のかへりあかきやきく乃水　同

勇城わりのえこ波まかぶきま秋れきく　同

ちかりあまや老年いつき乃秋の菊　同

むねともうつ波にそてみんよ秋れきる　同

なれのそてみん秋いく色やや乃菊　同

うつ波をぬきくや小なる天漢かし　同

花のへん霜かしとをしあきれきく　同

花のなん世やかつ見のあさき乃さく　同
菊よひらけ松本こそあやう世れ秋　同
仙人ことふもろ里さけ屋よのきく　同
やほ人乃よそひまそみよ宿れきる　同
うへたてくるんるや仙人やせ乃さく　同
かそれ世もなき淵乃壷やきくれ淀　同
ふぢ流なくあきをなほみよ庭れ菊　同
浅く粧やさうに小花上ゆは乃きく　同
花なしね去秋もきくの浅路か那　同

黒かこ山まそく

ふ孫くこに世と為し山や菊れくけ　同
そ我のなほきくよりたのむ山路ぶ　同
この花や山ちの志るし庭とのきく　同
山路行人あの花よ志るし宿れきる　同
山路小とかそふわやさん宿乃きく　同
やとに菊うら人は人まいや庵ちられ　同
とふ為とのきくふわそほく山ち来　同
山ちをとをかさしてこえんやとの菊　同
庭れきくに山ちいそくなと網乃月　同
山ちまそおしをくやし庭とのきく　同
摘にまれきくをうそなる山ちら那　同

九月十三日乃会より

月やしのふ今宵の月・本秋乃きく　同
うたをみち木末をさくれ山ちりな　同

一　宰府之天満宮にて
きく人も書く梅は志ろしも匂ひ哉　同

九月盡
あき残せけるかな老をねきくれ哉　同
ちきりきやときは朔の月にかな菊　宗長
咲くなれて咲とや海へん庭乃きく　肖柏
咲き乃とも世にふる秋三川あきれ菊　同
かくろもそりねふ菊のかけ哉　同
氷けやまかうへそふ海秋のき々　同
浅ひさしわまてまかへ秋はさく　同

都よる里人乃中垣一本
霜いくへ九の重ねのあかのきく　同
うきころや花は志ぐれし秋乃きく　同
いく秋やなれてけふもやとれきく々　同
分きえぬるふやこの花あきのきく　宗碩
玉ゆらかなるはわかれきくれはゆ　同

隠れ人立よりし一庵に
たれかれに山ちれをちらさくの露　同
秋乃いろをならふや梅な宿れきゝ　同
此日を惠それらは書のため菊の花　同
ちよをさけ人なられへ重やきれ菊　同
一とせれきふいくちき秋乃きく　同
花染ふをゆうなる花の秋のき々　同
ねきくかを花はしくれかきくれ露　同

とひて見よ明月やあらし世か菊の露　同
さそやひぬうつろひおもふ秋はきく　宗牧
おもをみん雪しそゆかり霜乃きく　同
水とかれ老をきく色はまわひかれ　同
きくふちは庭を花そめ末乃家ゆ那　同
いまはそふ流まやいく世きくの水　同
さらきくあかる見山路乃常世りか　周桂
うつろひ思難う人し菊そけさは霜　同
見ぬ事は月乃ともくれにほへ秋のきく　同
きくをたまゆかりよみそふ花も道　同
かねまた世めや根こめは八千世霜乃菊　同
菊の月の名にほふきくはさかり哉　同

あさしもはちる花とあそひめそ乃く菊　昌休
露やいつむさひそあめりきくは秋　同
九月十日
うけとめてこてふきを色はりも瀬戸哉　同
いろそふや末くいちくれは菊の露　同
さらつゆを花はちりくるきくは庭　同
山路に遅咲乃人出京の時に
あとはさふりかれときく乃山路哉　同
あをいたの袖の手ほひそやゆ乃菊　宗粮
そめ色やきくふいくしかけさは露　同
さらきくは花の何すりあさの霜　同
秋や霜をけそいろりのまさ草　同

菊まみしゆきはゆく世にふれ水　同
秋りやきくれるひまかふ宿乃きく　同
うへそめしゆはや水上きその流　同
千代乃うけのえふや白さく庭れ松　紹巴
花の候義ありゆくきくやけさ乃霜　同
きくに落て根やうるか世の松の露　同
志らきくの色よわいふ千ゝれ色　同
仙人やいてんこやこのそのくきく　同
かけさくや末とゝをとれやと乃菊　同
孫やひとつ松乃葉のいろ庭のきく　同
きくハ笑てまちりゆくことてふ哉　同
一枝乃きくや野やま乃海とのうら　同

若ゝろれみかひとめ来ぬきくれ庭　同
末ゝよあゝへ咲てもちらぬ菊れ庭　同
松ゝ遠き千年あそあま道宿乃きく　同
すゑとゝき花や志らきく木ゝの松　同
きくれ水ゝて当ゝへね庭の昨　同
う人にてゆく志もひろし菌乃きそ　同
いやましの花や末草れ園のきく　同
きく乃露き海きさゆく前の徳ゝ那　同
きるれ花やつむ綠かくを園れきく　同
仙人乃世けをしそをめきくのこ内　同
亀のう人乃山るさゝわか庭乃きそ　同
とをあひくいさ千年へん宿の菊　同

かりそめや秋また生れきく乃ちか　同
行ぬまや河さなし露ときくの花　同
三川うへは年ふる菊はしつか也　同
咲えちる二見のわいはうきくの花　同
くむあさ乃淺な流ふりしきく八色　同
流ま穂めや水はそこなるきく乃色　同
くゝみましあとをかうりし菊の水　同
秋よはかなくや叢ふし乃きくは庭　同
注河ふる八千世しるしや宿乃菊　同
・摂取寺すまく
水むまひ花つむきくの家のまうれ　昌札
あさ乃ことくにあはまるみさるま　同
そらふ海をいく秋りふるきくは花　同
九月十月
いろなれを求つむ花やそのまゝ　同
含溝神主與り
菊に霜志ゆふくなれいのふうれ　同
めて来流る秋やこのはかやとの菊　同
在のこえをくさしてやうれ宿は菊　同
ちうきくや霜よる里志をれ花のいろ　同
咲ほん苑よありともやせはきく　玄仍
念玉さそかめてなん在との菊　同
梅

たけをみちまさうにさ里ハ立投哉　高須

鶍

鶍乃なくゆふ日の竹ハ色の外　宗養

日を暮て朝きり深き山の郷　紹巴

鶍あれとや雨さそひ来る木末かれ　同

しくれや色のそめくれのうすもみち　同

柞

ちらぬ思ひより柞紅葉色なるそらそかな

山ふかくいろかそ見えぬねたく柞哉

正木

七夕のまつをも正木はかしかつられ

松にかけ世残まさきのうつろふかな　宗祇

まさ乃葉もいろそへり正木乃葛かな　紹巴

紅葉

盛りゐるそらの里も紅葉をみちの郷　心敬

とわれは色なるあきは山路かな　同

みしきとる木すゑやあきの手向山　紹蘊

竹

峯ぞいのみそら色紅葉ハゆふ日かけ　高須

秋の月みちちるもうつめ下もみち　宗碩

荒

紅葉せぬ松もまじれし秦時雨の那

かさ枝まで志ぐれをまさぬ紅葉ぞ

月を入るゝもみぢまのころ夕しぐる

志らされは紅葉そ常のさき木すゑ哉

水やむすう流ゝ涼のちさもみち

新撰

くもりぬれしきや月の下もみち

竹

色そめぬ竹そあをとりわきけれの哉

園

あきれ色をいへ月も此雨そこのさき山

新撰

山とをし庭よりまそめよ住むの河あ

秋風は木すゑやこけがうつりき

竹林毛へ

うきくむ紅葉やいその村しぐれ

瀧なきにくるゝひたちてあきもこ

わなし枝をわきても手を離紅葉か那

志ぐれをもかけしてぬる紅葉哉

たなうそ梢のみち志紀入る峯乃雲

本のまく

色しきをかるをみちの

志ぐ穂こハそめんいろなき紅葉哉

園

山姫のそめからふいろうすゆ紅葉

もみぢ行人をうらハとや雨哉

ちりて今ハうハ一えやそつもみち

本のまく

秋乃風くれなゐ　木間のかな

松まかる志ぐれやおしむうきそ紅葉

壁

うきそもみち志ぐ哉て木すゑ哉

行ふちりて秋をり後まぬもみち哉

浅からず見へくそむ露を待思草木哉
宗祇

染そめは草木やなかの秋のいろ
同

そめ染ま木々やうつろはむかしき
同

時雨よりまさる涙はそめ思やまぬ道
同

色見えぬはあらし涙やちしほかきの雨
同

露や霜よりも夕や千しかな秋の色
同

見えぬよ先しくれをまつ見えく乃色
同

まちてふれ又やそめん木々の霜
同

常磐の見せんあらしは色を木々は雨
同

あらし染ハ風やあともと秋の色
同

花をそめし松も色ちらぬもみちかれ
同

露人を宿やさしのみちれて手繧の錦
同

庭松あきと末すゑも色は手向かな
同

わくそむる紫よりも色うすし霜の文
同

露なかの袂やしくれ乃うす紅葉
同

子志のとや山をそめきん落葉のみち
同

ちりかゝる色海ふし中ふ日の落紅葉
同

志らくとも海一しをそ落紅葉
同

露や志らいろきさのふれ落のみち
同

そめて又時雨やならふうすのみち
同

水を見け露のこし染は紅葉
同

かは川染く時雨入みえよ木々の露
同

うきくらくそめよ木末秋の露
同

色を旅人の袖やもみちのつゆの宿
同

そめてまし川ち緑やきくのたつ時雨　同
深わたさせまさむ山乃下流しく浪　同
ちくれいろにな家を一つの心の那　同
はや見し山やさこそめあさしくま　同
あきれ色はそめてもそわ乃那ゝ哉　同
山ひめ乃てそ染みうえ遅きつ時雨　同
山さめれおもえぬ松りのすゝめみち　同
色よれ空しく袖の思ふかさえ乃れ　同
庭れいろ残あきハ那のみしなし　同
戸ゆしをね関よせれを添紅葉りか　同

　白河すく千句れ連哥に

あきれ色と下そふあかせえくさ山　同

　若州小濱にて千句に

露そりし見よ色紫れ山そそつゝきくれ　同
そめそいへ川たなし色え流淡や南　同

　宇津乃山を越侍し時蔦の紅葉を

うつゝ乃山こゝろ世はつたのゆみち哉　同
松ひともわかしねをかきしうらもみちふ　同
流くしに下りしに深河の色まそ
そめ川を時雨し山乃こ川く哉　同
河し乃葉をこ川しれ志う思紅葉哉　同
山やあめりくれなひのあきれ水　同
紅葉世をいつきこ山乃木ゝのつゆ　同
あらしをや木ゝときらし霜乃松　同

もみちせぬ都にはやく遠山おろし　同

山乃てやはまりおちれ下もみち　同

かゝりちりゝせ紅葉ハ峯の朝ぼらけ　同

太宰府之天満宮にて

ゆかりを何人懸幣もかゝれ紅葉の那　同

来かはし再来ぬあきさるのもみち哉　同

そめてかへ夕月のも朔を落紅葉　宗長

朔きる里と見しやえくれ乃うす紅葉　肖柏

書写山にて

下草や霜とうつみんとろのもみち　同

うれ紅葉ふりし思ひく秋あさ田のれ　同

峯のためそ時雨わくしそれ紅葉　同

花紅葉まさせてふかふや聖山花のもみち　同

文亥弘そゝめし遊乃面白れ連

哥しはしけ

ちりすかよ秋ありしらぬ詠れ初紅葉　同

をくや霜露とも山乃うつろひけ　同

源政定亭の会に

世はたゝべ山も時雨れうつりき　同

をりしる世山も川もその居るけ　同

箕面山中にて

山も秋をこゝやこの春のましきゝ那　同

淀乃里にて

河きこ里にちりてもうつふ紅葉哉　同

なり海に下りし時源貞次をしく会に
濡りけくのみちを訪ふか世志り海川　同
舟しはしよか川を散てのちしき紅葉　同
苺乃上より散る流あるのみちかな　同
白山も見く長月のある
をみちては越乃しら孫やあさきれ雪　同
山ミ川乃のみち世紀入るりる里田かな　同
唐室まくの会に
秋もまだ来ぬ弟しら露れもみち　同
行秋も山あえ乃とせもそをちち　同
きのふにぬ雨や夜さむれうれ紅葉　宗碩
いろなりけくあそ秋のそろ紅葉　同

うちをみちしく迄そこそ秋一本哉　同
秋や来紅葉くれあひましろ切那　同
うたしう人をせとに紅葉乃林くれ　同
そめしあきゆてりやゆうん落紅葉　同
ふそなかろ紅葉たむろろ交来りに　同
あゆしとそ紅葉よあけふあきよ逆　同
月やのこる木とものあしの落紅葉　同
しくれきや紅葉に西まる瀧乃しし　同
色よいろまつふをろちや夕附月　同
見しくをみん物ん見を秋の花もみち　同
山見れえ乃ふりりにしき秋もなし　同
こおろくや林は秘きのちさのみち　宗牧

うへてまつみ緑やそめし袖のもみぢ　同

いろにみえん月を時雨は紅葉　同

まさ志りし雪やハそめ染下のもみぢ　同

下そめかゆき日のさかり秋のや庵　同

いろにせし時雨の一木そろもみぢ　周桂

すへて見ん紅葉にいそけふかく枝　同

としの葉のいやましにみえん手入哉　同

峯たかくもみぢと楼のかゝれ　同

秋やとあれうちの梢そろもみぢ　同

散かゝるもみぢのはしれくれそ水　同

うゑいそけいろしる木々乃袖紅葉　同

さそいまさく都しに見ましのもみぢ哉　同

紅葉かけなまの乃そ山そのみとり里　同

秋やゆくと志つまぬ木末うつる翠　同

ちしほかそ紅葉まは志ほきと絹乃霜　同

露の色やきくかへるらん下もみぢ　呂体

　武州金沢稱名寺青葉紅葉と云

　あり尚庭ありし所也

涼風して名にも立枝のすゞ葉かな　同

おくふかき紀もゝ緑や露れ蔭のもみぢ　同

　知足寺千句十紅葉乃題に

秋の色はわすれまやおもひ立田ひめ　同

　作名

花よ見んぬいろ河人つみにそろ紅葉　同

八幡より所望

夕附日松さへ山のもみち哉　同

酒ある帝つく

おさなへよ松は霜ふるさもみち　同

於天王寺

もみちちるやちるも秋の御法乃こゑ　同

けり秋の蔭してちらぬ若もみち　同

山見きはあさきを錦しなりけり　宗養

木乃まそふ水を居ぬのこ海ゆしき　同

一本かも山くち志らぬもみちかな　同

色ふかんよ折しまぬ梢ちらの初もみち　同

ゑけやきく花の香りとふ志らさ紅葉　同

二月のまちやおりへてもさのみち　同

きうて雨まつさむを待ちの時雨ぐ　同

ちるやかり月ともまつのさもみち　同

けりあき残せ紅を宿山乃紅葉ゐ　同

まくれ色を初しかひとをみなさ哉　同

死ぬるて紅葉をかくまゆふ色りふ　紹巴

すりひなもいとはしき里乃落紅葉　同

もみち葉をうき孫あけ半ら折も哉　同

かうちるやまのふ見さ里し下紅葉　同

紅葉さんうさ里や秋を云ふみとる里　同

ゆく秋も散る錦をとめんもみち哉　同

一葉ちと折しむそささそふ志らさ紅葉　同

いく秋ときさつむ庭のもみちの那　同
年ふるも木の本にたえし紅葉哉　同
神の門あけよふちそふ紅葉の帆　同
のみち葉は浅いやまさる井つき哉　同
ときさはや水をいろそふもみち哉　同
みしきをうきや木すゑのあきの雨　同
く秋乃色もみちをあしこけの庭　同
菊のもみちゆゑにかはりて思ちきり哉　同
いろなりて散も老その末葉かな　同
いかたしふとりもみちの大井川　同
世の人を見えしまつ浪紅葉の帆　同
秋むらを秋のいろそふしぐれかな　同
月まちて秋ゆく人見ゆるもみちの那　同
ゆく水そりちらぬそうふ紅葉哉　同
うけし給乃紅葉ハちらく思ふ交軒の那　同
ちる中み秋わの木そのうる紅葉哉　同
たちてきん袖さん山乃もみちの帆　同
紅葉よわ生ていくもと峯乃まゝ川　同
庭そりもみく山路乃色やうれもみち　同
さ山木のいろをそもむら時雨の那　同
時雨ふる山路わをきんもみちかな　同
ともいそもみちの中ーの山路哉　同
みこ見し波のみちふ思ふ山ちかの那　同
ふふあを木すゑを汲ふふ紅葉りかな　同

あき山やうへらんうてを居すしな　同

川水はいろに染しやうきを紅葉　同

日入やみし義を末にれ山下風　同

よその秋紺いかき木のもみち哉　同

や面あえいなまし花壇やうすく紅葉　同

よきてひ音ねぐるのあとや村もみち　同

秋山をはさけ乃酔のかほり哉　同

山くゝ乃よゐのみし折の羽戸りな　同

秋乃蟹をわたる我山のさくもみち　同

簾の内まけいこ山北のもみちかれ　同

かはちりておく水色そふて山か那　同

月日をし山路ふくしきく紅葉　同

みや雨よを旅乃高きりん紅葉りな　同

紅葉たや河しにあかふ清めくり　同

山くゝ乃もみち残池の流れ見くれ　同

ゆく秋の面ゝ羽を乃とを紅葉哉　同

いろくゝのえやはしめをこ山哉　同

山水ゑりくれちまひはらふあらし哉　同

しゐ幾けをいろある風乃木末かな　同

源氏竟宴心前奥り

月まれかえさやうつろい下もみち　昌叱

夕くきりをみしふを嵐むて山哉　同

やつをま寸入をみにあもみちりな　同

をみち葉をりさ猿あけ嵐る山哉　同

深やま木や紅葉ぬ色又あきれハいろ　同

丹波周山にて

露しくれあまねき山乃もみち那　同

そめ乃こせ色ミえきち深紅葉かれ　同

房州紹之源氏亮斎より

もみち葉にやま又下水ハ句の種かな　同

山乃色や句のまとむ何人ぬふもと川　同

八分所望普請之比元康真巧

紅葉に流人状めくり川乃はくみかな　玄仍

於向那

さか山や河きり里正川に紅葉かれ　同

秋落葉

秋の思くみしきて木々ハ落葉かな　紹阿

秋の聲木ちりて音ある木乃葉かな

ゆふえりハ梢乃葉ちりてあきの道

吹きこぬ風乃あきしも深木ハそらかな　宗祇

秋とのせてりかえや山木葉かな　同

數山西深院にて

うつりき岩にはらめに落葉かな　宗碩

色かわれにまさへ海のふ木葉かな　宗牧

うれをしちれ木ハ葉にみえ思嵐かれ　紹巴

ちり秋を目入りさやかなる木葉かな　同

秋の雨にしをれ乃志けくふかき葉の那　同

篠木もかつ降るえまんむら紅葉哉　沢

わきの松に山風きかねやまなし　同

世山木乃うけゆく秋のもみち葉かな　呂叱

冬奉月次并奥入

けさ秋ま乃河しためんれち紅葉かな　同

秋時雨

絹つゆそ木にふかき思ひよ時雨　心敬

竹

色かけりし流しれ山かそめしくれ　智蘊

そめよふかく深くれ乃あひ乃そ流時雨　賢盛

新撰

そめおけ世月のそらしやそらしくれ　宗砌

園

みの月や山水かの坐れて流しくれ

秋そまき木乃葉まかりぬ時雨かれ

ゆく秋乃たましくらくそうの心

塋

初志く袖ぞめて外にまかる山めくり

枝ふ時雨そめはやともかぬ秋の海

時雨きや夕月をのこにあきれ海

あさうけく夕立くもやそうしくれ　宗祇

おりひそそ時雨を木々にあかの雲　同

峰ゆきもしやしぐるる里れ山路哉　同

ちるは萩しくれ色海末乃枝やり那　同

あきの末くそれいろに秋乃時雨哉　同

秋はさ残松り河も松人夕時雨　同

うら風や松を志ぐれのあきの声　同

雪折をしくまや姨さんすみ川のあき　同

そめ残してすみ川風はなる志くれ哉　同

あらつきを三山や秋のそら志くれ　肖柏

いろなし定松はやきみん初志くれ　同

常の秋入り間なく時雨に峯乃松　同

ちる露やそゝ時雨をしくれ乃秋の声　同

あつ志くれ秋よまかのきりくれ哉　同

そうに見ぬ秋き川音は志くれ哉　宗碩

志ぐるゝとて動かぬ秋や庭とのすみ川　同

なひ空あき時雨乃こり山めぐり　同

山すみ川をゆふ日いろ凄く時雨乃那　宗養

篠乃葉れつゆやさら山もしくれ　同

惜ゆる海時雨をなられ気や雨乃那　同

時雨はわ色入り木すゑ乃跡志め里　紹巴

秋八月乃下やしくゆゝふのこゑ　同

秋死し猿まつそめいくる時雨かな　同

秋乃夜れゆ貴をしる袖の時雨かな　同

讃波松山之名所興行

松山波わきてあらしのしくれ哉　玄仍

九月盡

雪ふらさみちとて人の惜秋もかな

風わたりし秋そ木葉に苦かな　宗祇

ぬるゝ垂の秋をゆく聲はかゝみしな　同

露にきゝ末葉ちりてあきの道　同

夕顔にかくれて秋やみしの浦　同

かへる秋をいたゞきは山路のな　同

萱鳴ともきゝふもをもし千世は秋　同

あき更女松乃葉のさの梅さつる哉　同

かはる露もくれてはあきは草木哉　肖柏

秋もわかいとくあけまの雲なき哉　宗牧

舞は長月知し世ゝのあき　同

月草に津しや日のすゞ網乃秋　同

志ふとをあとや雲風吹ふはあき　同

粉秋のうら見まさ乃ふ木々も散し　同

かくつへす月もはいけこそふ乃秋　同

いりあきのころも千知なれ初えのれ　周桂

抄しみあしおく涙を秋乃とまりけ哉　昌休

常盤木は庭もくれいりあきもなし　宗養

あきをきふりさきやう世よ夕時雨　同

雲同行人あり思ふちりそけふ乃秋　同

雜秋

きりきりす秋は都乃ゆかりのや宿　紹阿

新撰
くれ竹の千世祝ふむへ春秋の水

若
雲かゝりの峰に河まつてあきのゆめ

新撰竹
あきへ
秋の世にのへらさ花のこゝや都

うら寒吹あき風志らさきねすゑのかれ

桂乃葉も夕と秋の木すゑかな

秋のいろ残こやうふ山ふかき山路哉

竹

忍残うつる秋乃草木れ千枝の葉

関をせき木末も伝こゑ忍うか

山ふかしまれ世乃庭れあきのいろ

壁

あかし涼さん葉ハ雨ののちしぐれ哉

うすくなるみ空や木くれ秋乃色

見ぬ前と是あさきも冬よかの宿れ松

あきハ風の川ともかハらぬ秋の形

隔さつやかな残の川ともいつ忍松の色

あきしれ色かハりの梢も吹山路哉

宗祇

あきとふく河しり乃秋くや苔の露　同

秋の梢なり花の跡に残河し為のかれ　同

秋のいろをかくろふをれなし草葉哉　同

秋と為て二たれ色をや峯れまつ　同

秋とをしいやゆし乃はの霜乃まつ　同

うふ残とやかしをまつ乃河きれ庭　同

風やあらぬ松よ面としれあきの色　同

秋乃聲なり村草あ残き小松の葉　同

まつ川あ人あら涼をあら為河この色　同

秋の冬と松よそめ川ふかし身か　同

まつ乃色いかしと雨紀のちこゑ不哉　同

枯れ色もあきよそ河人ぬ志さ葉哉　同

まつ風やきかふ千代乃あさのいろ　同
露やふたついくよの秋そこもれ松　同
松は小松千代ふいくよれあきの数　同
松や志ほれもよそひの千世れあき　同
かゝ人をけ松乃象しくれちよ乃秋　同
あつさゆく末いく千秋いそれます　同

謡会よく催し会けり

風やあきるひくあつまの草木哉　同
くれ竹やそれまつちよれあきの色　同
物の月も竹のかけりおふ千鳥かな　同
花やわもうくみん秋のゆふ暮かな　同
清ゆやい流そとうなかるあきの海　同
流そるふよしや草木も秋乃うそ　同
雛波浦の秋ありあとはの海をうるか　同
みなり世け君をかり川乃秋れ水　同
水はたゝむるゝ流や見や滝あきの庭　同

横河乃安永の音まく

山水もりくれふりしあきのこゑ　同
松くや山本れまもさらむ秋のこえ多　同
こゝれ松そめぬも雨れもゝ流りれ　同
海をうつあめやこや滝乃あきの声　同
くれをとも雨こそゆふ暮まとの秋　同

探刈丹生寺まて

世くりたる思秋を猿さけつこ山かな　肯柏

久しく月なり給ひし時播州萱野
神社乃法樂に
そらに知や雨をのそゝれわたる雲　同
次乃月よも今くる里待ぬ
なき跡の罡見侍しとき
松のうへに花さき秋乃なかりけり　同
和泉堺にて
色に見よそろし秋の蝶はわかれの衣　同
天王寺にて乃千句連哥に
すゞ風や名にもとおもはれあさ乃海　同
播州室乃津にまうでし時
いろなしね松の緑を秋やむろの海　同

同國小塩海にまうで乃舎り
又やみんとむすひと世れあきの水　同
あけさきや宿かる松に秋乃蝶　同
摂野を旅し侍りし時
松乃をみるや手向あきの蝶　同
自然斎三回忌宗長宗碩なと
悵ひをし侍に
天かける玉やこゝのあたりあきかせ　同
独吟法樂れ連哥に
あきは風あひかす四方の草もなし　同
山家乃旅宿に
いそかしや山をむさしひあきの風　同

そよけり梢枯れてやまの夕附日　宗碩

あかりへて秋堂のなかりし松乃色　同

深山木もふけてはしらし乃あきの色　同

あらしふく秋乃霧うきを夕日哉　同

ふく樓閣まふさる身加ふあきの色乃肌　同

山まつ乃うつる紫秋なる河さ月乃那　同

うつ里あしはら荻を河り秋の水　宗牧

なつこや花月もゆふかれ乃あし原哉　同

石山にて

松ふりし雲をそれてやしみそて乃海　同

色やかずり見ぬ山さむき朝戸かな　同

あさのをふれとこぬ竹の夕日哉　同

松乃いろやそめ初しかし秋乃海　同

松竹もはのあきそふ霞みきりられ　同

海をすへ乃うしかれ秋や山のみとり　周桂

ちる諸あ山乃梢や松出れ夜乃嵐　同

つむ年城志乃み志乃ふ乃言葉哉　同

ませまわ人むすふや秋れ紀乃ろう　同

角田河にて

秋風やこゑとふかくれわたし守　昌休

秋ものいろいろ浅を手れ見岩ま哉　同

ゆ梢やあきす霧ふきこゑ波とふ竹　宗養

い涼うてもうくちそ秋乃見る雨哉　同

うさ山やあさのうへなるあ紅の庭　同

ゆふあひのまぜに名残の別かな　同

なき乃戸やむしへも留守はもゆかり　同

波ぞあやにむけの風乃にほひ哉　同

ときそなる松やうへまであきの色　同

おくやまうらやむかしのそらの山　同

松乃葉は志つさ庵いく代あきのころ　同

や雨ぞあきらしにのうへ乃あゐ哉　同

一りくるあきのみの子種はそのふくれ　紹巴

秋の色やはてのむかしく今朝乃霜　同

まくらの色やあきあるよ露はあめ　同

あき風乃こゑののきあるはしり那　同

山まつはあきにならそふみとまり　同

松に浜さきちりあみのいろの道　同

秋ふるを月のひかりこそはゆ勢の海と　同

楼はあきみしにむかろそぬ袖の道　同

しるやりゝにふ秋はかりぬ松の色　同

三河志ちの入江やあまれあきの声　同

秋やしきなかくときりし山たかし　同

あき風乃前はけふ入ることく風　同

野はあきのなかくなかにさ松の那　同

江乃秀きあきな残たり折のすみ　同

うれえしやつきてしもえん秋の変　同

世残秋はいりくもせん乃孫さあ哉　同

みよしのく花よるけなりあきの庭　同

いさよふて夕くれの影も色白し　同

様々の色あるいさよひ中に花かな　同

おうる野

とり火の前のゝき秋立てゆく光哉　同

いさよひの雲きて雨ます人やうつと到　同

あけぬ月をあまりに秋色こそそ哉　同

色々の中に来たりし旅人の松　同

あき風そへ山ともあさな新たるかれ　同

いさよひ月はむらに宮根や面影の花　同

暮行人もいろく草迷や山の端　同

山くとひとせえ水にいろゝなし　同

峰すみあふ風松葉くさや秋の色　昌叱

水さひふる秋あき小野の古江かな　同

みのおうそ

なさけなくしやそゝまてあまきは秋乃雨　同

秋をくむ露の後の水の前の道かな　同

ねくゝ入る秋乃月なつね常の称かな　同

霜八重ひとく萩やくむ乃そへ行　同

いり秋のめちにうくまはや面の返　同し

丹後つゝく

はしるや松よりもとめ思秋乃色　同

おゝ面部

なかのまわうる人思はや荒の風　玄仍

發句惜秋記終

110X
121
3